

目指す学校像		群馬県農林業の多様な担い手育成						
重点方針		1 質の高い教育の実行 2 実績の上がる学生募集の実行 3 実績の上がる進路指導の実行 4 県民の期待に応えられる研修の実行						
番号	課 題	現 状	評 価 項 目	具体的方策及び評価指標	経過・達成実績	達成度	外部評価委員会からのコメント	
						<table border="1"> <tr><td>A</td><td>100%</td></tr> <tr><td>B</td><td>80%以上100%未満</td></tr> <tr><td>C</td><td>60%以上80%未満</td></tr> <tr><td>D</td><td>60%未満</td></tr> </table>		A
A	100%							
B	80%以上100%未満							
C	60%以上80%未満							
D	60%未満							
1	質の高い教育の実行	<p>1 これからの群馬県農林業を支える人材を育成する県内唯一の公立農業系高等教育機関で、実践学習を教育の基本としている。</p> <p>2 課題解決研究に取り組み、能動的に学ぶ力を育てている。</p> <p>3 1年次は全寮制をとり、寮生活を通して規律・協調・思いやりの精神を育てている。</p> <p>4 今年度から、「農業コース」を地域農業や6次産業化をマネジメントできる人材を養成する「農と食のビジネスコース」に、「森林・環境コース」を林業技術者の養成を重点とする「森林コース」に改編。また、「野菜コース」「花き・果樹コース」の定員を増やし担い手の育成を強化する。</p>	<p>・学生にとって分かりやすい授業の実施</p> <p>・学生がやる気と自信の持てる教育</p>	<p>・授業評価にもとづく授業方法の改善 教養科目・共通専門科目の授業アンケート (H28:コース専門科目)</p> <p>・よりよい授業のための研修実施 新任職員への支援 (職場研修、派遣研修、OJT研修)</p> <p>・能動的に学ぶ力を育てる アクティブラーニングの導入 ・課題研究・意見発表等への取り組みの強化 (全国大会出場を目指す)</p>	<p>・前期、教養・共通専門科目17科目実施(9月) 授業改善に役立てるため担当講師に結果報告職員会議で結果の分析と対策を検討(10月)</p> <p>・後期、共通専門科目26科目実施(1~2月) 授業改善に役立てるため担当講師に結果報告前期で評価の低かった職員(4名)の評価は改善職員会議で結果の分析と対策を検討(3月)</p> <p>・職場研修 授業のすすめ方研修(5/8:新任指導職員7名) GAP研修会(6/5:31名) 作業機械の安全利用研修(6/26:12名) AED研修会(7/25:5名、7/26:5名)</p> <p>・OJT研修 新規採用職員対象に実施(新規採用職員1名) 授業方法を学ぶ(キャリアカウンセラーの講義7/12:7名)</p> <p>・農水省指導職員新任者研修(6/20~23:1名)</p> <p>・指導力向上研修(高度農業経営者教育機関) ①指導力養成研修(12/15:新任職員5名) ②就農計画作成研修(12/18~19:指導職員5名)</p> <p>・アクティブラーニングプロジェクトの設置 授業方法を学ぶ(キャリアカウンセラー講義7/12:7名) 第1回プロジェクト会議(8/1:8名) 内容:アクティブラーニングについて 第2回プロジェクト会議(9/25:10名) 内容:試験的導入授業の検討 試行授業の見学と検証(3講義:11/30、12/7、2/5) 第3回プロジェクト会議(2/22:9名) 内容:アクティブラーニングの導入計画案の策定</p> <p>・課題研究 計画検討会(5月)、第1回中間検討会(6~9月)、第2回中間検討会(10月)をコース別で実施 校内課題研究発表会(11/21・22) 代表課題研究発表会(12/12:群馬会館) 練習2回 関プロジェクト発表会(1/25・26:栃木県) 練習3回 課題研究3課題(上位入賞無:全国出場無) 全国プロジェクト発表会(2/12~14:見学・運営9名) 次年度計画検討会(1~2月:コース別)</p> <p>・意見発表 各コースの代表課題選定(10月) 校内課題研究発表会(11/21・22) 代表課題研究発表会(12/12:群馬会館) 練習2回 関プロジェクト発表会(1/25・26:栃木県) 練習3回 意見発表1課題(上位入賞無:全国出場無)</p> <p>・各種懸賞論文への応募 キャリアデザイン I で作文・小論文指導(4回) 夏休みに1人1課題の作文を作成 ヤンマー学生懸賞論文・作文に40名が応募し2名が銅賞、1名が奨励賞を受賞</p>	<p>・授業評価はよりよい授業を提供するため継続して実施する(H30はコース専門科目を対象)</p> <p>・職員の資質向上を図るため継続して実施する (次年度も高度農業経営者教育機関が実施する指導力向上研修に応募する)</p>	<p>・アクティブラーニングはプロジェクトを継続するとともに、各コースで1科目以上導入する ・全国プロジェクト発表会での発表を目指し、課題研究の計画段階から指導を密にする ・学習意欲を高めるため、ヤンマー学生懸賞論文・作文等に積極的に応募する</p> <p>・アクティブ・ラーニングは、小中高と導入が進んでいる。農林大でも是非継続的に取り組んでほしい。 ・課題研究について、2年続けて全国大会出場を逃したが、入賞するための課題設定や発表方法のノウハウを失わず学生指導に取り組んでほしい。</p>	

番号	課題	現 状	評 価 項 目	具体的方策及び評価指標	経過・達成実績	達 成 度	次年度の課題と改善策	外部評価委員会からのコメント
				<ul style="list-style-type: none"> ・先進農林家等体験学習の効果的な実施 受け入れ先の事前学習指導と連携、調整 インターンシップを兼ねた研修 ・カリキュラムにGAPを導入 ・基礎学力向上 実習等で必要な学び直しの補講の実施 ・企画・販売学習の強化 生産から加工・商品開発まで一連の学習 	<ul style="list-style-type: none"> ・体験学習報告会(9～10月:コース別) 受け入れ先とのトラブル2件(H28:4件) ・就職を希望する学生のインターンシップを兼ねた研修先の選定(農業系:5名内定、林業系:8名内定) ・1年生の体験学習先の選定(研修目的と学生との相性を考慮し、受け入れ先を選定) ・体験学習の事前指導(2月:コース別・全体) ・国際水準GAP認証取得拡大推進事業を活用して野菜コース施設野菜専攻で4品目のASIAGAP認証取得に取り組む 模擬審査(第1回:9/25、第2回:10/13) ASIAGAP認証取得審査受審:(11/2) 認証取得(12/13) ・他のコースでもGAPIに取り組みを開始 GAP研修会(6/5:31名) 模擬審査見学(第1回9/25:12名、第2回10/13:9名) 後期(実習)からGAPを取り入れる ・国際水準のGAPを学ぶカリキュラムを作成する(H30) ・各コースにおけるGAP取組計画を策定 ・数学 学カテスト(4月・9月:2回)を実施し、基準に達しない者と希望者を対象に補講を実施 前期:8回、17名受講(出席率:73.5%) 後期:8回、9名受講(出席率:47.7%) ・英語Ⅰ(希望者を対象に実施) 前期:12回、14名受講(出席率:44.6%) ・英語Ⅱ(希望者を対象に実施) 後期:12回、5名受講(出席率:60%) ・プロから学ぶ販売学習 特別講演会① 農林大生へのメッセージ(6/27:1・2年生) 「日本の農業をカッコよく」 鈴木盛農園代表 鈴木啓之氏 特別講演会② 販売戦略を先進事例に学ぶ(10/12:1・2年生) 「つくることは売ること」 信州ファーム代表取締役 荻原昌真氏 ・地方セミナー:全6回(高度農業経営者教育機関) 「販売戦略を学ぶ」対象:農食コース1年生20名 12/15にイオン高崎店で販売学習 ・校内販売学習 花と野菜の即売会(5/3:野菜、花き・果樹コース) 榛の木祭(11/11・12) ・校外販売学習 青空マルシェでの直売会(4/30:2名、2/18:2名) イオン高崎店での直売会 (6/23:9名、10/27:7名、12/15:8名) 酪菜館での直売会(7/7:7名) イチゴ品評会(県庁)で加工品販売(1/23:8名) ・6次産業化に関するプロジェクト(農食コース1年) 食品営業許可(菓子製造業)の認可(11/22) ぐんまの干しイモステップアップ!プロジェクト 運営委員と商品開発を担当 干し芋フォーラムで開発商品発表(県庁:1/26) ぐんま・すき焼きアクション すき焼き祭りでアイデア商品受賞(11/26) 農村起業情報交流会で商品紹介(県庁:3/5) 	<ul style="list-style-type: none"> ・研修目的を明確にするとともに、事前指導を徹底し、受け入れ先とのトラブルをなくす ・H30のカリキュラムに国際水準のGAPを導入する ・各コースはGAP取組計画に基づき実施する ・数学補講の後期出席率が低いことが課題で、次年度は実施方法を見直す ・開発した加工品の販売学習場所の検討 ・イオン高崎店での販売学習は継続して実施する ・6次産業化に関するプロジェクト等に積極的に参画する 	<ul style="list-style-type: none"> ・GAPに取り組むことは、学生にとって勉強になるので、積極的に進めてほしい。 ・6次産業化への取り組みは、農林大の魅力度を高めている。 	

番号	課題	現状	評価項目	具体的方策及び評価指標	経過・達成実績	達成度	次年度の課題と改善策	外部評価委員会からのコメント
				<ul style="list-style-type: none"> ・1分間スピーチによるプレゼンテーション能力の向上 ・学業優秀者、生活態度優秀者の表彰 	<ul style="list-style-type: none"> ・キャリアデザインⅠで指導と発表(1年生:60名) ・キャリアデザインⅡで指導と発表(2年生就職班:46名) ・代表者による発表 <ul style="list-style-type: none"> 7/26:2年生 10名(全校集会) 12/27:1年生 6名(全校集会) 2/20:1年生 5名(学年集会) ・各種褒賞等授与式で表彰(3/22) <ul style="list-style-type: none"> 学業成績優秀者 1年生:5名、2年生5名 生活態度優秀者 1年生:5名 		<ul style="list-style-type: none"> ・継続して実施するが、より多くの学生に機会を設けられるよう検討する ・学生のやる気を高めるため、継続して実施する 	<ul style="list-style-type: none"> ・表彰は学生の励みになる。良いことと思う。
			<ul style="list-style-type: none"> ・社会生活の基本を身につける 	<ul style="list-style-type: none"> ・寮生活を通して規律、協調、思いやりの精神を育む ・学生、職員一体となったあいさつ運動の実施 ・地域との連携 <ul style="list-style-type: none"> 箕輪城まつりへの参加と地域住民と連携した景観づくり 	<ul style="list-style-type: none"> ・指導職員による宿直指導(4~5月) ・生活相談員による指導(周年) ・1年生 メンタルヘルス面談(5月) ・1年生 校長面接(10月) ・1年生 コース三者面談(11月~1月) ・職員からの積極的な声かけ ・生活指導職員による通学時の声かけ ・学生自治会と城山入りロフワーククラブと連携した花づくり <ul style="list-style-type: none"> 菜の花(5/10:片付け) コスモス(7/19:定植、8/10:除草、10/11除草) ・箕輪城の環境整備 <ul style="list-style-type: none"> 下草刈り(9/15:13名) ・地域行事への参加 <ul style="list-style-type: none"> 第16回みのわの里のきつねの嫁入り(10/2:5名) 第15回箕輪城まつり(台風のため中止:12名参加予定) ・小学生への花づくり指導 <ul style="list-style-type: none"> 箕輪小5・6年生対象(10/25:7名) ・6次産業化に関するプロジェクトに参加(再掲)(農食コース1年) <ul style="list-style-type: none"> ぐんまの干しイモステップアップ!プロジェクト運営委員と商品開発を担当 干し芋フォーラムで開発商品発表(県庁:1/26) ぐんま・すき焼きアクション すき焼き祭りでアイデア商品受賞(11/26) 農村起業情報交流会で商品紹介(県庁:3/5) 		<ul style="list-style-type: none"> ・箕輪城の環境整備を計画的に実施する ・地域行事に積極的に参加する ・6次産業化関連のプロジェクト等に積極的に参加する <ul style="list-style-type: none"> 新規:ぐんまのウメ産地再生プロジェクト 新規:ナシ産地の商品開発プロジェクト 	<ul style="list-style-type: none"> ・箕輪城下草刈りなどの地域貢献は非常に良いこと。勉強にもなり、ボランティア活動でもある。マスメディアなどを通じてアピールもすべき。学生の励みにもなる。
			<ul style="list-style-type: none"> ・教育環境の充実 	<ul style="list-style-type: none"> ・教育施設・寮の整備 ・寮の生活環境改善 ・キャンパスの環境整備 	<ul style="list-style-type: none"> ・加工実習室備品整備(加工機材):6月 ・第1大教室の空調更新:6月 ・教室暗幕カーテン(赤城畜産寄贈):7月 ・大型トラクター(柳澤基金寄贈):9月 ・野菜コース温室整備(GAP関連):10月 ・学生ホール屋根改修:10月 ・チェーンソー他(清水インダストリー寄贈):1月 ・教育棟外壁改修:1~3月 ・牛舎牛床マット改修:3月 ・温水洗浄便座の導入 <ul style="list-style-type: none"> 4台(導入可能便器全て完了):8月 ・食堂調理機器更新:2月 ・女子風呂シャワー2基新設:3月 ・毎月学生職員で清掃を実施 ・花壇の整備 		<ul style="list-style-type: none"> ・H30拠点整備事業に申請 <ul style="list-style-type: none"> 野菜温室新築(2棟) 野菜・花き等温室設備改修と機械導入 ・H30予定 <ul style="list-style-type: none"> 寮空調設備更新 	

番号	課題	現状	評価項目	具体的方策及び評価指標	経過・達成実績	達成度	次年度の課題と改善策	外部評価委員会からのコメント
		(数値目標と評価)		◎学生の授業満足度評価 「おおむね満足」以上 80%以上	・前期 教養、共通専門科目17科目 (おおむね満足以上評価 72.2%) ・後期 共通専門科目26科目 (おおむね満足以上評価 73.52%)	B		
				◎アクティブラーニング試行導入授業 3科目	・果樹栽培論Ⅱ(11/30)、野菜経営流通論(12/7) 森林生産システム学(2/5) 3科目	A		
				◎課題研究・意見発表で全国大会出場 1名以上	・全国大会出場者 無	D		
				◎懸賞論文等への応募者 1年生 80%以上	・1年生(森林コース除く)40名がヤンマー懸賞論文に応募 応募者 85.1%	A		
2	実績の上がる 学生募集の実行	1 入校生の定員は確保されていない状況 (H29年度入校生62名/定員100名)にある。 2 近年の入校生の状況は、非農家出身者の増(H29入校生:76%)、女子学生の増(H29入校生:29%)が特徴となっている。 3 本校入校生の約6割が農業高校出身者(H29年入校生:63%)であり、農業高校との連携が重要となっている。	・入校希望者や保護者への農林大のPR	・魅力あるオープンキャンパスの開催 学生が中心となった運営 ・県内高校への学生募集訪問 全職員での取り組み ・学校案内やホームページによるPR(農林大の魅力や情報を発信)の強化 ・全寮制に対する不安解消 在校生から寮生活の楽しさを伝える(出身高校への派遣)	・学生が中心となった運営 学生と職員による実行委員会の設置 ガイダンス班、寮見学班、学校見学班、学校装飾班、試食コーナー班を設置し、実行委員会2回開催 第1回(7/27:学生20名) 第2回(8/2:学生17名、後援会5名) 第3回(8/9:学生15名) 第4回(9/2:職員で対応) ・前期高校訪問(6月:全職員:70校) 学生募集・オープンキャンパス等の案内 ・後期高校訪問(9月:全職員:70校) 情報収集と学校案内 ・高校3年担任への説明会(7/11:勢多農) ・高校進路相談会(24回) 4/27:利根実、5/16:高商、5/18:伊勢崎地区、5/19:興陽、5/26:富実、6/2:安総・中之条・藤北、6/15:利根実・新田、6/16:榛名、6/19:大泉、6/22:吾妻、7/7:藤北、9/19:勢多農、9/26:中之条、12/7:新田暁、1/18:新田暁、2/9:長野原、3/6:利根実、3/12:尾瀬、3/19:清陵・中之条(吾妻)、3/20:勢多農 ・後期入校試験前高校訪問(1月:幹部職員:19校) 情報収集と受験案内 ・H30学校案内を充実させる(作成中) 12→16p ・高校生に課題研究成果を発表 農業クラブ連盟年次大会(伊勢崎)(1/25:1名) 勢多農課題研究合同発表会(2/1:1名) ・見やすい、魅力あるHPへ刷新(7月) ・タイムリーかつ細やかなHPの更新(農林大スナップやトピックス) ・学生の出身高校への訪問(各高校2名派遣) 6/16:伊勢崎興陽 6/23:利根実、大泉 6/30:勢多農、藤北、富実、中之条 ・高校職員に会議や農林大見学会で、不安解消をPR ・オープンキャンパスで、入校希望者に学生から寮生活の楽しさをPR。 ・オープンキャンパスに参加した保護者に対して、後援会役員から学生が楽しく生活している様子をPR		・次年度は新たに一般入試受験者を対象に、10月にも実施し5回に増やす	・高校3年担任への説明会は入校者増に大きく寄与したと思う。 ・県内の大学に農学部ができる。農林大ならではの良さをアピールして対抗すべき。 ・全寮制については、寮は楽しいということを高校生に広めてほしい。

番号	課題	現状	評価項目	具体的方策及び評価指標	経過・達成実績	達成度	次年度の課題と改善策	外部評価委員会からのコメント
			・農業高校との連携強化	<ul style="list-style-type: none"> ・連携会議等を通じた情報交換 農業高校の担任等へのPR強化 ・積極的な学校見学会の受入れ ・職員による派遣講義で農林大の魅力を伝える 	<ul style="list-style-type: none"> ・学校教育と行政との連絡会議(5/29、6/28) ・高校3年担任への説明会(7/11:勢多農) ・高等学校職員による農林大学校見学研修会(7/24) ・GAP教育に関する連携 認証取得に向けた研修を本校で実施 (1/16:勢多農職員4名対象) 勢多農での公開認証審査(2/19:本校職員2名) GAP導入研修を本校で実施 (3/5:高教研農業部会:26名) ・勢多農林高校(11/1:2年生39名) ・桐生第一高校(11/6:2年生37名) ・富岡実業高校(1/10:1年生35名) ・安中総合高校(11/16:定時制29名) 「群馬がつくった品種たち」 ・大泉高校(11/16:3年生25名) 「二酸化炭素で花は変わる」、「コギクの課題研究」 ・大泉高校(11/28:1年生39名) 「群馬がつくった品種たち」、「6次産業化で新たな農業ビジネスの創出」 ・大泉高校(1/23:2年生35名) 「ハウス環境制御技術」「環境に配慮した害虫防除」 ・中之条高校(3/19:1年生3名) 「シクラメンの栄養診断」 			
		(数値目標と評価)		<ul style="list-style-type: none"> ◎オープンキャンパス 参加者数 実参加者150名 参加者の満足度評価 「おおむね満足」以上80%以上 ◎高校訪問 2回以上実施 ◎HPの更新回数 50回以上 ◎入校生の確保 72名以上 	<ul style="list-style-type: none"> ・オープンキャンパス参加者 実参加者 139名 延べ197名 (7/27:65名、8/2:49名、8/9:62名、9/2:21名) ・参加者の満足度評価(3回平均) 「おおむね満足」以上 97.3% ・6月、9月、1月(3回) ・更新回数 109回 ・入校予定者 73名 	B A A A A		
3	実績の上がる進路指導の実行	<p>1 H28年度卒業生の進路決定率は98.6%で、進路決定者のうち就農30.6%(森林・環境コースを除く39.3%)、就職68.1%、進学1.4%であった。農林業団体への就職が良好であったことが特徴である。</p> <p>2 森林・環境コースを除く就農率は近年40~50%となっている。うち雇用就農は40~50%で雇用就農者が増えている。</p>	(1年生) ・進路希望の把握と進路指導体制の強化	<ul style="list-style-type: none"> ・進路方向の決定と進路別指導 個別面談 希望調査 ・進路ガイダンスによる指導 	<ul style="list-style-type: none"> ・メンタルヘルスマネジメント(5月) ・校長面談(10月) ・コース三者面談(11月~1月) ・進路希望調査(11月、2月) ・キャリアデザイン I で進路指導(15回) 進路・ライフプランを考える 作文・スピーチ指導 雇用状況・労務管理 ストレスマネジメントなど ・進路ガイダンス 第1回 卒業生進路活動報告会等11/8 第2回 2年生進路内定者報告会等12/27 第3回 学内企業説明会事前指導等2/20 			

番号	課題	現 状	評 価 項 目	具体的方策及び評価指標	経過・達成実績	達 成 度	次年度の課題と改善策	外部評価委員会からのコメント
				<ul style="list-style-type: none"> ・学内企業説明会の開催 ・社会人としてのマナーアップ講座等の開催 ・就農、就業(林業)への支援 海外研修への参加誘導 農業次世代人材投資資金(準備型)、緑の青年就業準備給付金の活用 	<ul style="list-style-type: none"> ・学内企業(農業法人)説明会(9/27:16法人参加 全員参加) ・学内企業説明会(農林業関連企業・農業法人) 3/19 36社参加 全員参加) ・マナーアップ講座(2/20:全員) ・メーキャップ講座(2/20:女子学生) ・海外研修 キャリアデザイン I で海外研修の魅力を周知(2回) コース職員、掲示板等により誘導と周知 ・給付金 農業次世代人材投資資金(準備型) 説明会(6/22)を開催し周知(制度変更有) 12月申請希望者への周知(10月) 2月申請希望者への周知(12月) 緑の青年就業準備給付金 コース内で周知 			
		(2年生) ・きめ細やかな進路別指導	<ul style="list-style-type: none"> ・就農者、雇用就農者、就業者への支援 農業法人の学内企業説明会開催(情報収集と分析指導) 海外研修への参加誘導 農業次世代人材投資資金(準備型)、緑の青年就業準備給付金の活用 農業経営士との連携検討 ・就職活動状況の把握と支援 面接指導 ・編入学希望者への支援 補講、面接指導等 	<ul style="list-style-type: none"> ・学内企業(農業法人)説明会(9/27:16法人参加 学生11名) ・海外研修 コース職員や掲示板等により誘導と周知 ・高度農業経営者教育機関が実施する農業経営力養成講座への派遣 (7/31~8/2:3名) (12/4~6 :5名) ・給付金 農業次世代人材投資資金(準備型) 説明会(6/22:13名) 緑の青年就業準備給付金 コース内で周知(5月) ・2年生 校長面談(6月) ・就職試験対策面接指導(48回) ・企業訪問(7月:7社) ・キャリアデザイン II で就農・就職の進路希望別に指導 就農班(15名):営農計画の作成、農業法人・フロントランナー卒塾生等の講義 就職班(46名):面接、就活セミナー、スピーチ指導等 ・ハローワーク個別相談会(3回) ・英語 I 補講(12回:1名受講) ・英語 II 補講(12回:1名受講) ・面接指導(4回) ・合格者2名(宮城大、東京農大) 	<ul style="list-style-type: none"> ・農業法人、農業経営士、農村生活アドバイザー、農林大OB、フロントランナー卒塾生、農業女子など多くの先輩農業者から学ぶ機会を設ける 	<ul style="list-style-type: none"> ・編入学対策の面接指導により学生は自己アピールについて自信を持たたと聞いている。面接指導には保護者の立場から非常に感謝している。 		
		・専門資格取得教育の強化	<ul style="list-style-type: none"> ・補講の実施 毒物劇物取扱者 危険物取扱者(乙4類) 簿記検定 日本農業技術検定2級 他 	<ul style="list-style-type: none"> ・日本農業技術検定 キャリアデザイン II で受験対策指導(3回) 各コースで受験対策指導(随時) ・毒物劇物取扱者 応用化学 II で受験対策指導(8回:9名受講) ・危険物取扱者乙4 応用化学 I で受験対策指導(8回:31名受講) 	<ul style="list-style-type: none"> ・日本農業技術検定の合格率が全国平均より大きく下回った 次年度は指導方法を改善し合格率を高める 			

番号	課題	現状	評価項目	具体的方策及び評価指標	経過・達成実績	達成度	次年度の課題と改善策	外部評価委員会からのコメント
		(数値目標と評価)		(2年生) ◎進路決定率 100% ◎就農率 50%以上 ◎林業関係の就業率 60%以上	・進路決定率(内定者) 100.0% ・就農率 48.9% ・就業率 60.0%	A B A		・就農率は、目標の50%に僅かに届かなかったが、ほぼ達成したといえるのではないか。
				(1・2年生) ◎農業次世代人材投資資金(準備型)、緑の青年就業準備給付金受給者 10名	受給者数 24名 ・農業次世代人材投資資金受給者 14名 継続受給者3名(2年生) 新規受給者11名(2年生6名、1年生5名) ・緑の青年就業準備給付金受給者 10名 継続受給者4名(2年生) 新規受給者6名(2年生1名、1年生5名)	A		
				◎日本農業技術検定(2級)の合格率 30%以上	・前期合格率 12.2%(全国平均17.3%) ・後期合格率 4.3%(全国平均18.8%)	D		
				◎合格率 毒物劇物取扱者 40%以上 危険物取扱者(乙4類) 30%以上 商業簿記2級 30%以上 農業機械系資格 100%	・毒物劇物取扱者 11.1% ・危険物取扱者乙4 15.4% ・商業簿記2級(全経) 20.0% ・機械系資格 100% (大型特殊農耕車限定、フォークリフト、建設機械)	D D C A		
4	県民の期待に応えられる研修の実行	1 「野菜専門技術課程」「野菜基礎技術課程」「花き入門課程」「果樹入門課程」の4課程を設け、うち「野菜基礎技術課程」を5コースに細分し、実施している。H28年度は、定員(145名)を超える応募(168名)があった。 2 農業機械研修は、大型トラクター免許取得研修、作業機械研修、安全研修等を実施している。最近の傾向として高齢者、女性、雇用就農者の受講希望が多くなっている。 3 公開講座は、前分として、庭木管理、野菜づくり、梅加工の3講座、7回の開催を計画している。	・多様な研修ニーズに対応した「ぐんま農業実践学校」の運営	・円滑な就農に向けた体系的な研修の実施 野菜専門技術課程では、農業経営に関する視察研修を取り入れて実施 ・JA等と連携した担い手の育成 JAの基礎講座修了後のステップアップ研修として連携する。	・定員145名、応募190名、1.3倍(入校者・(修了者)／定員) 野菜専門技術課程(22名(22名)/20名) 野菜基礎技術課程(5コース)(110名・(107名)/105名) 花き入門課程(6名・(6名)/10名) 果樹入門課程(10名・(9名)/10名) ・野菜専門技術課程では、農業経営に関する視察研修を1回実施。 ・3JAの農業基礎講座修了生4名が実践学校に入校した。		・花き入門課程、果樹入門課程は定員が下回っている等により廃止し、農業体験講座を新設する。 ・JA等と連携し、さらに産地の担い手育成の取り組みを進める。	
			・県民ニーズに対応した農業機械研修の実施	・農業機械研修の計画的な実施と運転免許の取得 農繁期の基礎研修は、安全研修として実施 ・農業機械女性農業者研修の実施 安全研修から免許取得研修までを組み合わせ実施 ・農作業安全研修の実施 農業事務所等と連携した研修の実施	・免許取得研修は計画どおり実施。(実施回数/年間計画回数) 大型トラクター基礎研修(7回/7回) 大型トラクターけん引研修(2回/2回) ・基礎研修 7名 中級研修 10名 大型トラクター基礎研修 2名 (実施回数/年間計画回数) 小型トラクター研修(6回/2回) 小型農業機械研修(1回/2回) 農業機械安全利用研修(16回/15回) ・農業事務所、JAの基礎講座や生産部会からの研修要請が増えている。		・大型免許研修の充実 ・大型トラクター免許取得者を増やしていく。 ・農業事務所等からの研修要請について、引き続き対応する。	・トラクター研修は学生だけでなく一般の農業者も受講できるのは良いこと。じっくり取り組んで技術を習得できる。是非続けてください。

番号	課題	現状	評価項目	具体的方策及び評価指標	経過・達成実績	達成度	次年度の課題と改善策	外部評価委員会からのコメント
			・農林業に対する理解を深める公開講座の開催	・農林大の持てる資源を活用した講座の実施を通して、農林大のPRIにもつなげる。	・8講座/定員310名、応募412名、1.3倍 ・8講座開催(受講者/定員) 春夏の庭木管理とせん定(43名/49名) 秋冬野菜づくり(63名/70名) 手作りを楽しむ(梅三昧)(46名/48名) 秋冬の庭木管理とマツのせん定(23名/25名) 手作りを楽しむ(うどん打ちとおきりこみ)(23名/25名) 家庭果樹のせん定(51名/60名) 春夏野菜づくり(47名/50名) 花壇苗づくり(21名/30名)		・花き、果樹の講座を拡充し、開催する。	
			◎実践学校研修生の満足度評価 「おおむね満足」以上 80%以上	◎評価「おおむね満足」以上	◎評価「おおむね満足」以上 野菜専門技術課程 100% 野菜基礎技術課程 96% 花き入門課程 100% 果樹入門課程 100%	A A A A		
			◎野菜専門技術課程就農計画作成 100%	◎就農計画作成 100%	◎就農率 100%	A		
			◎野菜専門技術課程就農率 95%	◎就農率 100%	◎免許取得 合格率 大型トラクター基礎研修(100%:6回) 大型トラクターけん引研修(100%:2回)	A		
			◎大型特殊自動車免許等取得 合格率 100%	◎免許取得 合格率 大型トラクター基礎研修(100%:6回) 大型トラクターけん引研修(100%:2回)	◎運転免許研修中の事故発生率 0%	A		
			◎農業機械研修受講女性数 20名	◎受講女性数 17名	◎安全研修開催回数と受講者数 16回/155名	B		
			◎農業機械安全研修の開催回数と受講者数 15回/150名	◎安全研修開催回数と受講者数 16回/155名	◎公開講座の開催数と受講者数 8講座/310名	A		
			◎公開講座受講生の満足度 評価「おおむね満足」以上 90%以上	◎受講生の満足度 8講座「おおむね満足」以上 95%	◎公開講座の開催数と受講者数 8講座/317名	A		
					◎受講生の満足度 8講座「おおむね満足」以上 95%	A		